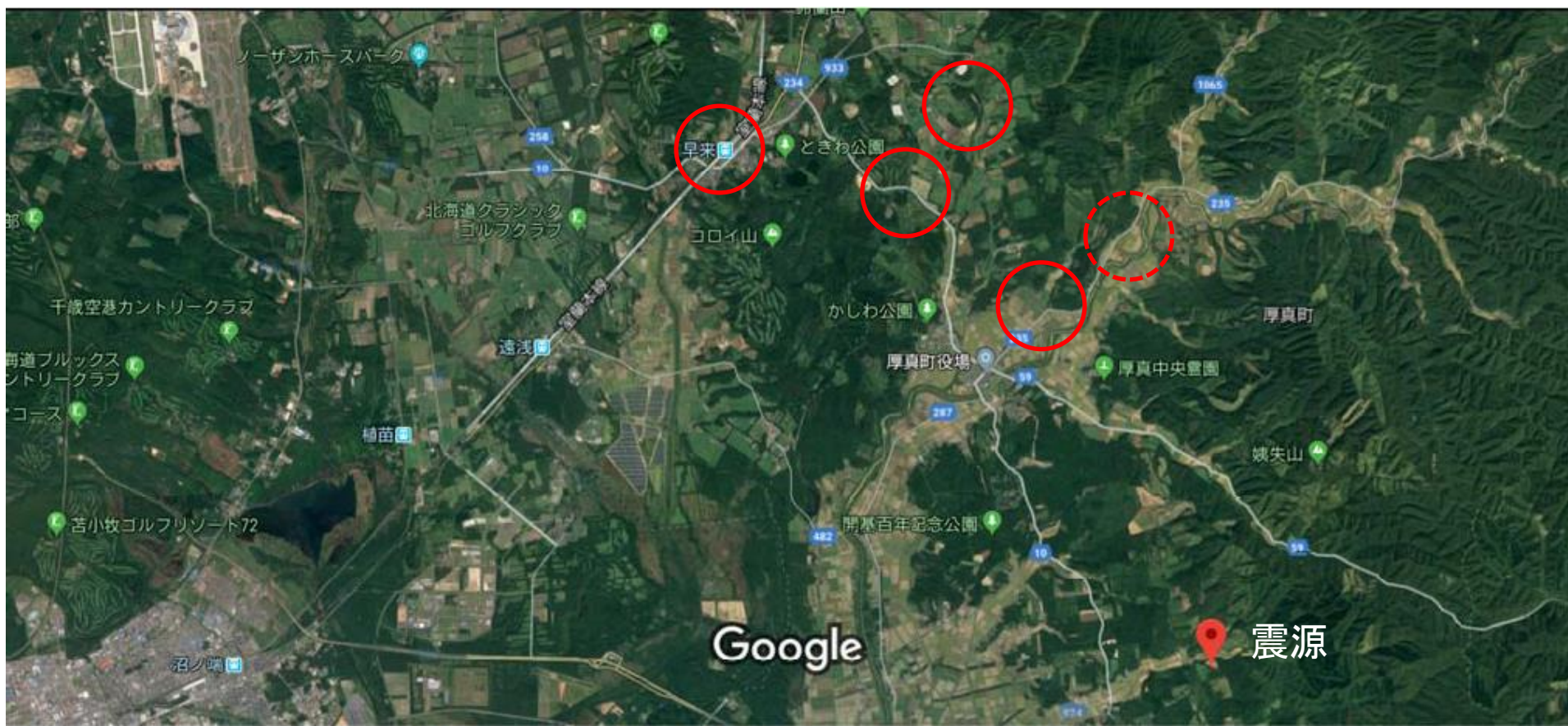


平成30年北海道胆振東部地震 調査

平成30年9月6日3時8分頃に発生した平成30年北海道胆振東部地震による被害調査を、安平町と厚真町周辺で行った。

調査者

9月7日：室蘭工大 川村志麻、苫小牧高専 所哲也（安平町、厚真町周辺）



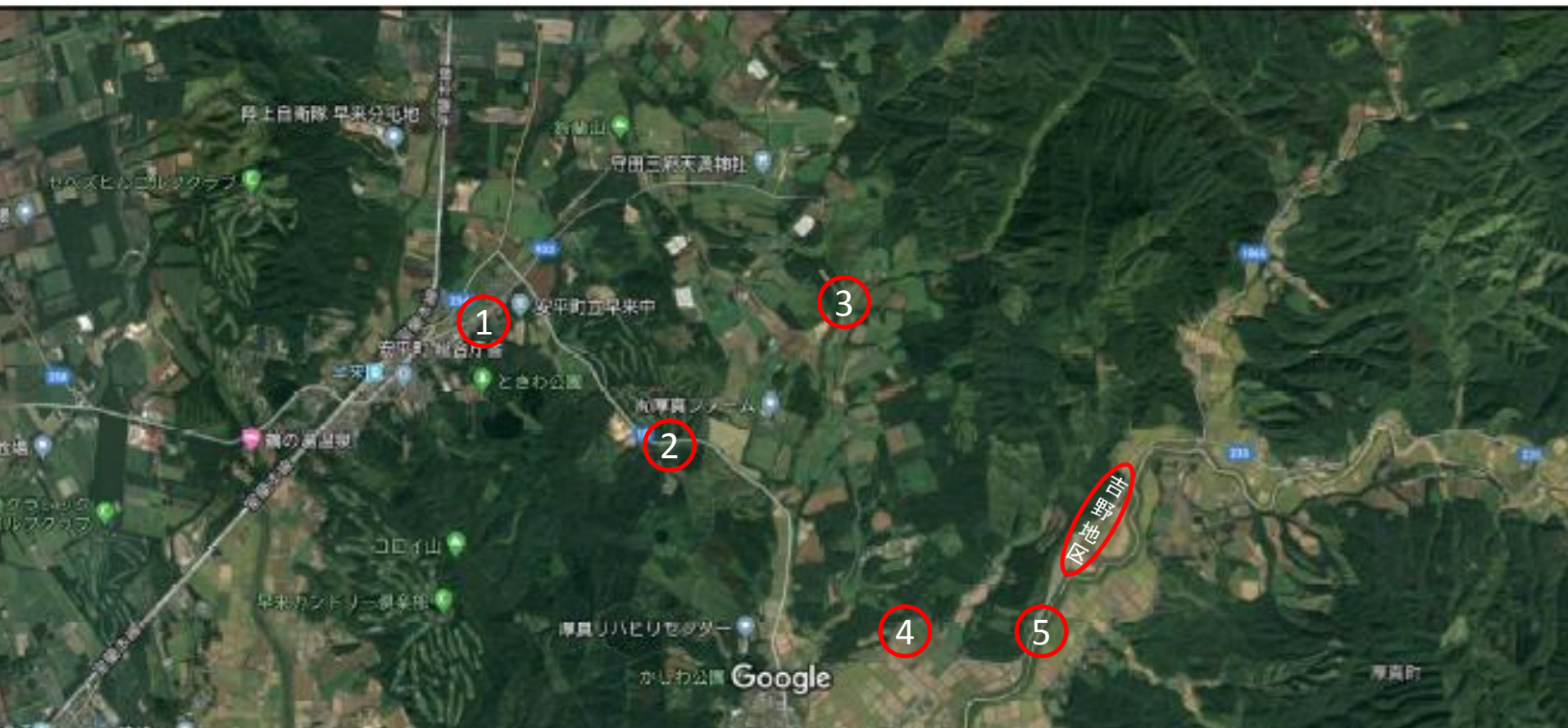
画像 ©2018 Google、DigitalGlobe、DigitalGlobe、地図データ ©2018 Google、ZENRIN 2 km

震源と調査地点の位置関係
赤丸 調査地点、赤点線：吉野地区

調査地点(9月7日)

安平町～厚真町

ルート: 国道36号線より道道10号線へ、その後、道道933号線
道道10号線～道道482号線～道道287号線～道道235号線



- ①道道10号沿線 栄町および保育園 付近
- ②道道10号沿線 早来斎場、塵介処理場 付近
- ③道道933号線沿線 守田三府神社付近 奥まで
- ④道道235号線より桜丘地区 周辺
- ⑤道道235号線 吉野地区手前 周辺

画像 ©2018 Google, DigitalGlobe, DigitalGlobe, 地図データ ©2018 Google, ZENRIN 1 km



①安平町市街 道道10号沿線 栄町および保育園 付近

1. 道道10号線 栄町信号付近、レンガ作りの家屋の崩壊

2. 道道10号線 保育所前バス停付近、液状化によるマンホールの浮き上がり、歩道の変状



②早来斎場から塵介処理場付近

道道10号線 早来斎場付近の斜面崩壊: 斎場の向かい側の斜面(上写真 右側)から樽前, 恵庭, 支笏降下軽石堆積物と思われる火山灰質土が流出、重機によって道路確保。



②早来斎場から塵介処理場付近

道道10号線 斎場より奥に位置する塵介処理場の向かい側の斜面の崩壊。先程と同じ樽前，恵庭，支笏の降下軽石堆積物が確認される。また、写真右下では水面も確認された。



②早来斎場から塵介処理場付近

道道10号線 塵介処理場よりさらに進むと、丘陵地帯が現れる。同じような表層崩壊が多発していた。



②早来斎場から塵介処理場付近

この周辺で発生した中規模の斜面崩壊では、写真上の左側から土砂が流出し、道道10号線を塞いでいたが、7日に道路幅は確保されていた。下部層には、軽石を含む火山灰質土が層状で確認された。すべり境界の上の土塊のまま表層すべり崩壊した可能性が高い。



③道道933号線沿 守田三府神社付近 奥まで

道道933号線では、陥没やクラックが多く確認された。守田三府神社やその先では斜面崩壊も発生していた。前述と同様の表層崩壊である。



③道道933号線沿 守田三府神社付近 奥まで
道道933号線のこれより先(道道10号の合流方向)は、左下の写真のように、道路の変状が大きく、通行できず。電柱も傾いていた。



④道道235号線より桜丘地区 周辺

235号線吉野地区と逆方向の道路の状況。道路の変状およびその近隣にある住宅裏山の崩壊が確認された。住宅の倉庫が土砂流出のため道路まで押し流されている。



⑤道道235号線 吉野地区 付近

235沿線の吉野地区の方向では、大規模な斜面崩壊が発生していた。崩壊土砂の様子を確認すると、風化の進んだ軽石が含まれていることがわかる。容易に指で潰つぶすことが可能。



⑤道道235号線 吉野地区手前 周辺

吉野地区に近づくにつれて、崩壊規模が大きい。道路確保のため、重機で流出土砂を除去。前述と同様の火山灰質土層が確認される。その先ではのり面対策工上の斜面が崩壊していた。

大規模斜面崩壊



⑤道道235号線 吉野地区手前 周辺

吉野地区の斜面崩壊を望む。写真からもその規模がわかる。写真撮影地点では、先ほどと同様の降下軽石堆積物が流出していた。

